

事業計画の特徴

- 浪江駅周辺を復興再生拠点（令和8年度末まちびらき予定）として新規整備していくにあたり、太陽光・蓄電池、EMS、純水素燃料電池を整備するとともに、商業施設等のZEB化や住宅のZEH化を目指す。また、エリア内一括受電と施設間の電力融通によるエネルギー効率の向上を図るとともに、世界最大級の再生可能エネルギー由来の水素製造施設「FH2R」において製造された水素の活用や福島国際研究教育機構「F-REI」等との連携を通じて、先進的な脱炭素社会モデルを構築する。
- 太陽光発電設備等の導入を今後設立予定の地域エネルギー会社を中心に実施することにより、再エネの地産地消につなげ、地域の経済活性化を図る。

事業計画の概要（民間） 再エネ：800kW

取組（個人）	規模
太陽光発電設備の導入	<ul style="list-style-type: none"> 50件 200kW
蓄電池の導入	<ul style="list-style-type: none"> 30件 300kWh
取組（事業者）	規模
太陽光発電設備の導入	<ul style="list-style-type: none"> 24件 600kW
蓄電池の導入	<ul style="list-style-type: none"> 24件 480kWh

事業計画の概要（公共） 再エネ：466kW

取組	規模
公営住宅等への太陽光発電設備の導入（PPA等）	<ul style="list-style-type: none"> 4件 466kW
蓄電池の導入	<ul style="list-style-type: none"> 1件 300kWh
CEMSの導入	<ul style="list-style-type: none"> 1件
純水素燃料電池の導入	<ul style="list-style-type: none"> 2件 70kW

事業計画の効果・費用

再エネ導入	CO2削減	事業費	交付金額	計画期間
1,266kW	15,056 t-CO2	22.6億円	8.8億円	令和6年度～令和11年度

取組のイメージ

